

備後教区報

第 164 号

2018(平成30)年3月31日

結ぶ 絆 から、広がるご縁へ
-From tying bonds to great encounters-

▼ 2月20日に開催された僧侶研修会

CONTENTS

- ◇教区会・実践運動報告
- ◇唱読法変更について
- ◇僧侶研修会
- ◇ルポ FM放送に寄せられる声
- ◇投稿「備龍会」
- ◇活動情報&インフォメーション



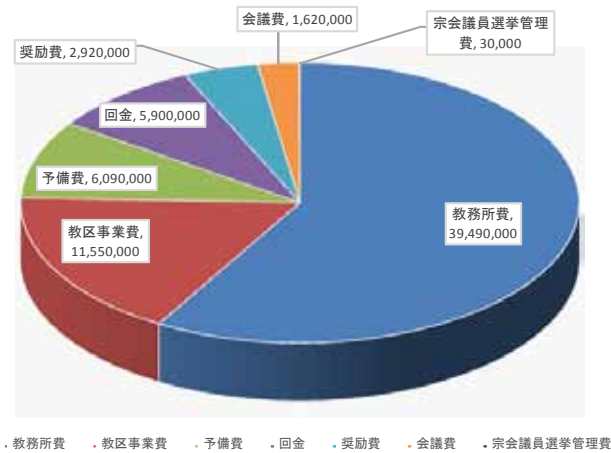
教区会

3月16日(金)、備後教堂にて2017(平成29)年度定期教区会(常光和信息化教区会議長)が開催された。この度は財務議決議案として平成30年度備後教区各種会計歳計予算案、及び平成29年度備後教区各種会計予算補正案の9件、法規議案として備後教区賦課基準規則の一部を変更する区令案、並びに備後教区災害対策規程の一部を変更する区令案の2件が上程審議され、原案通り可決された。

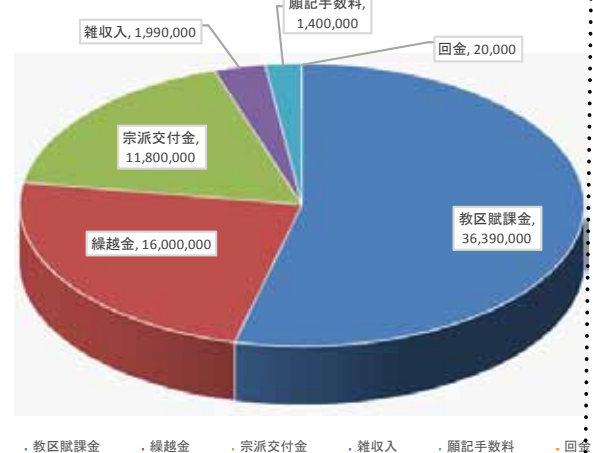
平成30年度備後教区一般会計予算は67,600,000円となった(円グラフ参照)

※平成30年度各種会計歳計予算書、並びに変更後の備後教区賦課基準規則及び備後教区災害対策規則については別紙参照

平成30年度 備後教区一般会計 歳出



平成30年度 備後教区一般会計 歳入



平成30年度備後教区一般会計歳計予算

実践運動

定期宗会より

先般開催された第三百十三回定期宗会において、次年度からの「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクトが審議可決により、正式に策定された。

総合基本計画は、ご親教「念仏者の生き方」のお心を体した内容に改定され、スローガンについてはこれまで通り「結ぶ絆から、広がる「縁へ」を踏襲する。重点プロジェクトについては、新たに宗門全体の重点プロジェクトの実践目標として「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace」子どもたちを育むために」と定められ、宗門全体で一体感をもって推進していくこととなった。教区、組においても宗門の掲げる実践目標を推進していくこととなるが、現場において取り組むべき課題は様々であり、教区、組においてはこれまで通り独自の実践目標を設定し、宗門全体の実践目標と併せて推進していくことも可能となる。

また推進期間については、従来の三年から教区役職者等の任期と整合性をはかるべく次期は2年となり、次々期は4年となる。

今後、宗派出向による重点プロジェクト推進のための学習会を4月17日(火)、本願寺備後教堂にて開催する。

教区総会より

3月30日(金)、本願寺備後教堂にて、平成29年度実践運動教区委員会総会並びに事業推進委員会全体会を開催した。本年度は第2期推進期間(平成27年度～平成29年度)の最終年度であり、まず事業推進3部会(同朋社会部会・門信徒部会・広報伝道部会)の部長より、本年度の事業を振り返り、そして3年間の成果と今後の課題について総括をいただいた。

その後、平成30年度よりの実践運動について教務所長、事務局より説明がなされた。次期推進期間は教区役職者等の任期との整合性を図るべく2年となり、重点プロジェクトについては、これまで教区や組など、各活動主体が課題を独自に設定していたが、次期は『念仏者の生き方』のお心をいた



『正信念仏偈』のみ 鼻音の廃止 「つ」(tsu)と発音

だき宗門全体の実践目標「貧困の克服に向けて」Dāna for World Peace ―子どもたちを育むために―を掲げ一体感をもって取り組むこととなる。今後の予定として、4月17日(火)、本重点プロジェクト策定の経緯、今後の推進に向けた宗派出向による学習会を、平成30年度実践運動教区委員会総会並びに事業推進委員会全体会に併せて開催する。

正信念佛偈（正信偈）の鼻的破裂音 （以下「鼻音」）の唱読法変更について

2017年12月18日

今般、正信念佛偈の偈文における「つ」の唱読について、「正信偈真譜・行譜・草譜」では「つ(tsu)」、その他の勤行(葬場勤行など)や声明作法(宗祖讃仰



作法音楽法要、廣文類作法、奉讃大師作法、正信念佛偈作法など)では「つ(鼻音)」の発音をしていましたが、以上すべてを「つ(tsu)」と発音し、今後鼻音を用いないように変更します。

1、変更理由

1961(昭和36)年3月に正信念佛偈「真譜・行譜・草譜」の唱読法に限り鼻音の依用の廃止以降も廣文類作法、奉讃大師作法及び葬場勤行等で正信念佛偈を唱読する際は、従来通り鼻音を用いてきました。

しかし、2011(平成23)年4月よりご修行の、親鸞聖人750回大遠忌法要に際し制定(2008(平成20)年8月)された「宗祖讃仰作法音楽法要」の正信念佛偈については、音楽法要という性質上、鼻音を用いず唱読されました。

以上のことから真譜・行譜・草譜並びに宗祖讃仰作法音楽法要は鼻音を用いず、その他は鼻音を用いるという現状の唱読法を統一するため、この度全ての正信念佛偈の唱読に関して、鼻音を用いず「つ(tsu)」と発音することに変更となりました。

2、変更期日
2018(平成30)年1月1日より上記について補足です。
鼻音とは？

日本語は古代より開音節語と呼ばれるもので、必ず最後が母音で終わる音節によって組み立てられています。撥音「ン」や促音「ツ」は漢字の影響によって平安時代に入ってから新しく生じた音節と言われています。漢字の中で「t」で終わる入声音は、原型とは多少異なりますが、鼻にかなる、吞む、ふくむ、などという独特の鼻音(鼻的破裂音)で発音して伝えてきました。ですからお経(漢文)の「ツ」の文字は鼻音で唱えてきたわけです。

鼻音の廃止は「正信念佛偈」のみ鼻音の廃止は「正信念佛偈」の唱読に限っての変更であり、統一です。

その他の勤行や声明についてはこれまでどおり鼻音を用います。具体的には？

例えば「葬場勤行」の場合、「正信偈」は鼻音なしですが、回向の「同発菩提心」の「ホツ」の「ツ」はこれまで通り鼻音で唱えます。

2017(平成29)年度 僧侶研修会

僧侶研修会は教区事業検討委員会(実践運動教区委員会常任委員・教区事業推進委員会常任



委員)が主体となり、広報伝道部会にて、企画・運営が行われている。参加者よりアンケートに記入をいただいているが、参加者以外の方もご意見があれば教務所までご連絡いただきたくお願いいたします。

教区内僧侶の研鑽を深める、2017(平成29)年度僧侶研修会が、2月20日(火)、御調束組照源寺(久本晃道住職)を会場に開催され、79名の僧侶・寺族が参加した。

講師に、本願寺派勧学森田真円和上(奈良教区葛城中組教善寺住職)をお迎えし、「正信偈の話ー中国三祖についてー」と題し講義をいただいた。

講義では、正信偈に示されたご文に沿って、中国三祖である曇鸞大師(476〜542)、道綽大師(562〜645)、善導大師(613〜681)それぞれの發揮(阿弥陀仏の本願を明らかにする上で、独自の教義展開)を中心に、仏教が中国に受容される以前、以後の展開など、当時の時代背景も重ね合わせながらの深い内容であった。

「僧侶研修会」参加者アンケート 集計結果(3月20日)

1、研修会開催時期について
①今のままでよい…40名
②その他【6月】…1名

2、研修会開催場所について
①今のままでよい…39名
②その他…1名
【公共・交通機関の結節点が望ましい】
③無回答…1名

3、研修会日程について
①今のままでよい…41名
②その他…0名

4、研修会テーマについて今後学びを深めたい内容(教学・環境問題・社会問題等)
・宗門の戦時教学について
・今回のような講義で「仏説阿弥陀經」も、よりわかりやすく講義いただきたい
・天台教学について
・憲法9条、反戦、念仏者としての関わりについて
・和讃について

・正信偈について
・七祖の話。日本の二人の方(源信和尚・源空上人)のお話を続けて聞いてみたい
・尊厳死、安楽死の問題について
・法事についての研修(地域ごとの違い、作法、法話、工夫等)

5、研修会に出講いただきたい講師
・森田真円師(引き続き)
・釈徹宗師
・吉崎哲真師
・浅田恵真師
・松尾宣昭師
・徳永一道師

6、その他意見・要望等
・とてもわかりやすく有意義な研修だった。(4名)
・寺族の参加も呼びかけていただき有り難かった。
・ホワイトボードの字が細く見えにくかった。太いペンで見えやすくしてほしい。(2名)

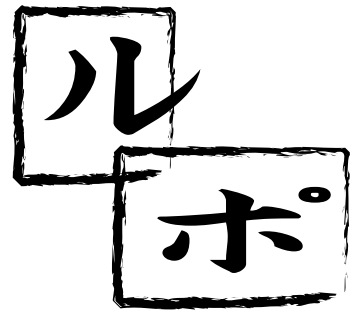
〈回答件数…79名参加中41件〉



▲1997(平成9)年に発行された号外



▲▼商工会議所内にある収録スタジオ



1998(平成10)年に勤修された「蓮如上人500回遠忌法要に向けて、前年の10月1日に「お坊さんステーション」がスタートした。放送局はエフエムふくやま(レディオBINGO、77.7メガヘルツ)である。放送がスタートし20年が過ぎた。リスナーからどのような声があるか報告する。(文責・教区報編集委員)

大きな法要(伝灯奉告法要等)がある時は、PRも兼ねてプレゼント企画を行なっています。

リスナーの方から、感想や仏事相談のFax・メールが届きます。仏事に関する相談が多く寄せられます。一部を紹介いたします。

ゆっくりビールを飲みながら聞いてます。お盆休みまでもう少しです。栄養をつけて乗り切りましょう。

お経を聞く機会が最近増えてきました



同じ宗派でも、お坊さんによってお経の感じが違う気がするのですが、お経にも個性があるんですかね?ちなみに、うちの妻がお世話になっているお坊さんはまるで歌を歌っているようにお経をとえます。これがとても聞き心地がいいんですね



Q3 姉妹の末っ子です。実家の両親は私にお墓の世話をしてほしいと言ってます。私や主人はこのお墓に入れるんでしょうか?父は次男なので子の墓には両親2人だけしかはいらないことになるんでしょうか?



Q 夏は生花ではなく造花でもいいでしょうか?

Q お墓に草枯らしはしないほうがいいでしょうか?



Q 仏壇を買うのに宗派は問うのですか?
Q 身近にお世話になってい
るお寺さんがいない場合、
いざという時はどのよう
に段どりしたらいいで
しょうか?
Q 仏事に使う数珠の意味と、
仏事に必要なものを教え
てください



Q お位牌の事でお聞きします。1つのお位牌に夫婦の戒名を入れる場合に1人目の時には四十九日の時にお位牌を拝んでいただき、魂入れをしていただきましたが、2人目の名前を入れる場合に、拝んでいただいて魂を抜いて戒名を入れてから魂入れで拝んでいただくようになるのでしょうか？そうすると拝んでいただくタイミングはどうなるのでしょうか？四十九日に拝んでいただくのでいいのでしょうか？」



Q 古い仏壇を処分したいのですが、粗大ごみに捨てるわけにもいかず迷っています。

Q 私は大好きなイルカの泳いでいる海に散骨希望なのですがそのような場合でもお墓は必要でしょうか？」



備龍会は(河村祐昭会長)1973年(昭和48年)に発足した浄土真宗本願寺派備後教区に所属する青年僧侶(20歳~45歳)の会です。この会は会員相互の親睦交流をはかり、僧侶としての自覚を高め、派内、寺門内外の問題を研修し、教法の弘通に資し、相互発展に努める事を目的としています。現在、会員65名が在籍しており、仏教教養講座、正信偈の公開連続講座、スポーツを通じての親睦、ダーナ活動、災害支援活動、浄土真宗青年僧侶の協議会への参加、仏教を身近に感じてもらうた

多方面に活動の範囲を拡げ、新しい企画を实践している青年僧侶の会「備龍会」の活動を寄稿して頂いた。

投稿 寄稿

青年僧侶だからできる活動を
共にやることで縁を模索

めインターネット(検索ページで『備龍会』と検索してみて下さい)の活用等、様々な活動を行っております。

共に阿弥陀様のお心を仰ぎ、よろこぶ仲間と、青年僧侶だからこそできる活動が続けております。

このように青年ならではの様々な活動を通し、お念仏のみ教えをより多くの方と共によろこぶ縁を模索しながら歩んでおります。応援宜しくお願い致します。

ごえんさんエキスポ



昨年12月9日、10日、本願寺で開催された「第25代専如門主伝灯奉告法要」の協賛行事「ごえんさんエキスポ」に備龍会の活動展示・物販・ワークショップを出店しました。40周年記念事業「お寺でフェスタ!」の上映、みのりせんべいの販売、そして仏具職人の鍔金具師、合場頼正師によるワークショップを行いました。鑿と金鍔でトントンと点を打つていき模様を浮き上がらせ、最後に金箔を貼り出来上がり。体験者が途切れることなく大盛況でした。また、色々な方々と触れ合うことによりこれからの活動のヒント、刺激をもらいました。



A large group of students and teachers are posed on a gymnasium floor. In the center, a large Japanese flag is being held up by several students. The group is diverse in age, with many young children and some adults. They are all smiling and looking towards the camera. The gymnasium has a wooden floor with visible court lines. In the background, there are basketball hoops and a net. The overall atmosphere is celebratory and proud.



HP「備龍会」で検索。
フェイスブックもフォローしてく
ださい。

2月22日、浄土真宗青年僧侶連絡協議会
本山総参拝に会員がお参りいたしました。全
国から約百名の青年僧侶の参加がありまし
た。「ことばのちから」というテーマが設け
られ、我々が普段使う言葉、僧侶として布教
の現場で使う言葉など、「ことば」を深く考
察するパネルディカッションが行われまし
た。内容で最も印象深かったのが「何を話す
かが大切だと思っているが、実際は誰が話す
かが重要なかもしれない」という内容でし
た。古くから言霊という言葉を使われてきま
したが、それは正にその言葉を発した者が前
提となつて共に伝わる力ではないだろうか、
僧侶としての普段の生き方が問われてくると
再確認した総参拝になりました。

3月8日、備龍会主催の連続勉強会へやさしく学ぶ『正信偈』の第1回目が備後教堂で行われました。備後教区内のご門徒さんを中心に約70名のご参加を頂きました。この勉強会は、「門信徒の皆様と僧侶が共に浄土真宗の教えを1から学ぶ」ということをテーマに龍谷大学教授の玉木興慈先生をご講師にお迎えして、昨年度より開催しております。このたびから親鸞聖人がお示しくださいました『正信偈』をテーマにご講義を頂いております。第1回では『正信偈』の題号の意味をお話し下さった後に、「帰命無量寿如来」の「重誓名声聞十方」の部分を中心にお話し下さいました。法蔵菩薩様が私を救うために願いを起こして下さり、私のために果てしなく長い時間ご修行して下さいたのだとお聞かせにあずかり誠に有難く思ったことでした。ご参加下さった方からも、「適度なスピードでお話頂き、よかったです」「また聴講させて頂きたいです」などのご感想も頂戴し、備龍会としてもとても嬉しく思っております。龍谷大学の先生にお越しいただいて定期的に『正信偈』の講義を聞くことができるご縁は中々ございません。どなたでもご参加いただけます。ぜひ一緒に『正信偈』を学び、阿弥陀様のお慈悲を聞かせていただきましょう！次回は5月17日（木）15時からとなっております。

活動の在り方を学ぶ

矯正教化

1月17日に「平成29年度 矯正教化連盟広島管区支部研修会」が本願寺備後教室にて開催され、当日は広島管区(安芸・備後・山口・山陰)より

News & 活動情報



14名の参加があった。講師に脇屋眞一矯正教化連盟中央委員(常任委員)をお迎えし、「教誨50年の中から」道を拓く一言(「教誨事例あれこれ」)をテーマに講義をいただいた。

講義では、『教誨活動の上で、「気付きを促すこと」を大切にしている』と述べられ、活動が一方通行にならないよう、事例を挙げながら話をいただき、参加者にとって学びを深める研修会となった。

全国集会在京都にて開催

ビハーク

2月17日・18日の2日間、京都・本願寺にて「第16回ビハーク活動全国集会・30周年記念大会」が開催され、備後教区からは9名の参加があった。

初日の基調講演では、京都大学大学院政策のための科学ユニット

特任教授 カール・ベッカー師より「仏教徒の生き方と逝き方」と題して多岐に渡って問題提起がなされ、その後に続いた意見交換会にて参加者が活発に意見を交わした。

二日目は、それぞれテーマが設けられた分科会が開かれ、参加者は円座で話し合いを行った。分科会は、今回初めてビハーク活動に関心を持った方、既に自身の所で

ビハーク活動を推進されている方、医療関係者等、背景の違い・立ち位置の違いを越えて話し合える貴重な時間となった。



勤式作法を学ぶ

勤式

2月8日、「備後教区後期勤式研修会」が本願寺備後教室にて開催された。この度は、満田宣也勤式指導所講師(僧侶養成部・式務専門職)をお招きし、「御伝鈔唱読法・作法等について」の講義をいただいた。

「御伝鈔」は、ご開山親鸞聖人



▲満田宣也講師

の御遺徳を讃仰するために、その生涯の行跡をまとめて既述された詞書で、報恩講法要の際に各寺院にて拝読される。

教区内より集まった28名の僧侶は、改めて「御伝鈔」についての唱読法と作法について研鑽する一日となった。

「是報非化」を学ぶ

広報伝道



1月19日
(金) 本年度
最後となる第
18回真宗講座
を本願寺備後
教堂にて開催
した。本年度

の安居の会読論題「是報非化」を
テーマに安方哲爾師(大阪教区南
郡組正満寺住職)より講義をいた
だいた。参加者一同、お聖教のお
ことばをいただきながら学びを深
めた。

来年度の真宗講座も引き続き安
方哲爾師にお越しいただき、全3
回(第19回、第21回)の開催を予
定している。

※詳しい日程については14ページ予報
欄記載

News & 活動情報

名古屋モスク訪問

布教団

1月24日、25日、2年に1度の
研修旅行を開催し、布教団員20名
が参加した。今回企画を行ったの
は青年布教使たちであり、大幅に
45歳までの布教使の参加が増えた
ことが大きな成果であった。行程
は、名古屋市内にてイスラームの
モスク訪問、東西名古屋別院参拝、
三重にて高田専修寺参拝、伊勢神
宮の観光等だったが、中でもイス
ラームの施設であるモスクは参加
者の関心を惹いたようである。宗
教は異なるが、イスラームの信仰
に対する真摯な姿勢や世界的な信



▲名古屋別院にて ▼名古屋モスクにて



者の広がりを感じ、また誤解を受
けやすいテロ組織とは全く別物で
あるということ、仏教との教えの
違い等、学びの多いものであった。
今後も研修旅行の在り方について
は役員会等で検討していく。

お茶の作法の指導を受ける

布教団

布教団では、実践運動・部門研
修会並びに臨時総会を開催した。

実践運動研修会は青年布教使
研修会との併催で開催され、表千
家同門会備後支部事務長の高下秀
範教授が茶道と仏教の関わりにつ
いての講義の後、お茶のいただき
方について実演を行った。

また、部門別研修では、
若原雄昭龍谷大学文学部教授
により「仏教者の社会性に向
けて」と題し講義が行われ、
布教使としての研鑽を積ん
だ。

臨時総会では、次年度事業
計画及び予算が議決された
後、団員互選(推薦委員の協
議)により副団長の選出が行

われた。新たに副団長の次期任期
(2年)に就任するのは左記の通
り

沼隈南組 善正寺 那須英信
沼隈南組 光源寺 北山祐章
比婆組 西教寺 藤井義英
(敬称略)

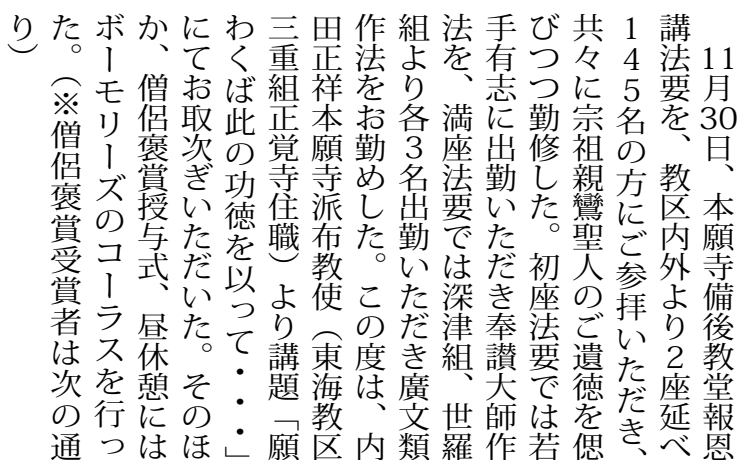


▲高下秀範表千家教授

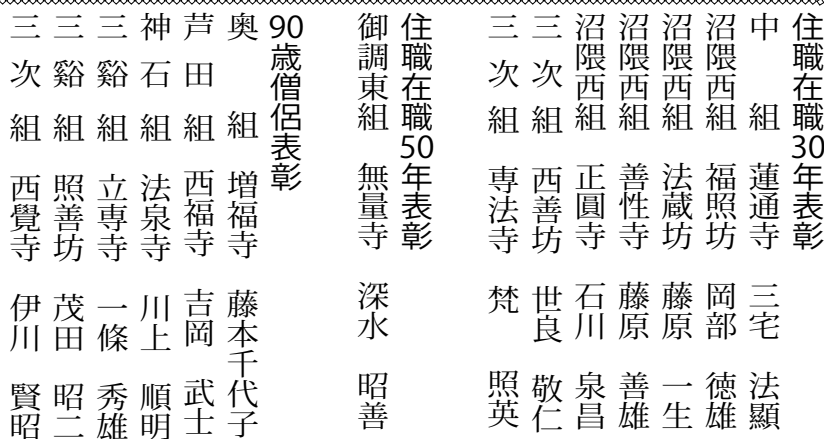


▲内田正祥講師

備後教堂



▲ボーモリーズによるコーラス



▲僧侶褒章授与式

12月	3日	4日	6日	11日	12日	13日	14日	15日	19日	22日	25日	1月	11日	12日	17日	18日	19日	22日	23日				
	門徒推進員聞法のつどい	広報伝道部会・専門委員会	合同会議	同朋社会部会	教堂常例法座	子ども・若者ご縁づくり推進委員会	仏青清掃活動・会議	教区寺院振興対策委員会常任委員会	教区賦課基準等調整委員会	教区災害対策委員会	門信徒部会	教区寺院振興対策委員会	組長会	布教団副団長会議		教堂常例法座	仏婦役員会	広島管区支部矯正教化連盟研修会	保育連盟臨時全体協議会	第18回真宗講座	寺婦役員会	おつとめ教室	勤式練習会

徳島・香川を訪ねて

仏 婦

3年任期が最終年を迎える教区仏婦連盟常任委員会では、2月13日(14日)、役員研修会を開催し、研修と親睦のため四国の地を訪れた。初日は、徳島の阿波十郎兵衛屋敷で阿波人形浄瑠璃を拝見した後、阿波踊り会館にて阿波踊りを体験し、鳴門大橋近くに宿泊した。

翌日午前中には、高松市仏生山町にある法然寺を訪れた。この寺院は、法然上人がご流罪になられた際に居住されたといわれる生福寺を移転復興した寺院であり、法然上人自作といわれる阿弥陀如来像が安置されていた。また、讃岐の寝釈迦といわれる釈迦涅槃像や、宗派を問わず各地より預かるお骨で造像された阿弥陀三尊等

News & 活動情報

を見学することができた。午後からは本願寺塩屋別院へ参拝し、沿革を学んだ後、帰路についた。

人と人の出会いを喜ぶ

連 研

2月16日(金)、本願寺備後教堂にて連研履修者のつどいを開催した。「みんな行こう中央教修・願いとよろこび」をテーマに、



講師より問題提起をいただいた。お昼からは3班に分かれての話し合い法座を行い、最後に講師よりまとめの講義をいただいた。中央教修の願い、そして中央教修受講を通して生まれる人と人との出会いよろこびについて改めて気づかせていただく意義あるつどいとなった。

ITテクノロジーでご縁づくりを

ご縁づくり

2月26日(月)本願寺備後教堂にて、午前はサポーター協議会、午後より公開講座を開催した。サポーター協議会では、本年度各組におけるご縁づくり推進状況を報告いただき、その後教区における事業展開について、各種意見交換を行った。



午後からの公開講座は、講師に地域集客コンサルタントの麦田稔先生にお越しいただき、「ITテクノロジーでご縁づくりを始めよう!」をテーマにお話しいただいた。チラシやブログでの個人事業主の集客をお手伝いされている先生より、誰に何をどうやって発信していくのか、発信していくためのツールの紹介等いただいた。

午後からの公開講座は、講師に地域集客コンサルタントの麦田稔先生にお越しいただき、「ITテクノロジーでご縁づくりを始めよう!」をテーマにお話しいただいた。チラシやブログでの個人事業主の集客をお手伝いされている先生より、誰に何をどうやって発信していくのか、発信していくためのツールの紹介等いただいた。

24日	教室責役総代会
24日	同朋社会部会
24日	布教団研修旅行(25日)
25日	門徒推進員世話人会
25日	子ども・若者ご縁づくり推進委員会
26日	若婦人役員会
27日	布教団役員会
29日	ビハークラ備後役員会
31日	おつとめ教室
2月	勤式練習会
6日	同朋三者懇話会
7日	後期勤式研修会
8日	広報伝道部会
9日	教堂常例法座
11日	「自死」を考える研修会
3月	ほほえみ講座
4日	おつとめ教室 勤式練習会
5日	第4連区教化連絡協議会
7日	組長会
9日	第4連区寺院仏壮結成のための研修会・連絡協議会
10日	(四州 11日)
11日	教堂常例法座
12日	布教団連合常任委員会・総会(本願寺)
13日	中四国ブロック講社講員研

自死を考える研修会

同朋社会部



▲講義をされる瀬川正仁さん

三月二日、本願寺備後教堂にて自死を考える研修会を開催した。講師にジャーナリスト瀬川正仁さんをお迎えし、『自死から私たちの社会を見つめる』をテーマに講義をいただいた。当日は、様々な立場の方が参加され、自死の諸問題について学びを深めた。

講社講員研修会

講社

3月13日～14日、2017(平成29)年度中・四国ブロック講社講員研修会を「かんぽの郷庄原」を会場に、備後教区引受にて開催した。

講師の、藤井義英門信徒部会部

長(比婆組西教寺住職)より、研修会テーマ「和顔愛語」に沿って一日目・二日目とお取次ぎいただき、43名の参加者がお聴聞のご縁をいただいた。

一日目の夕方、懇親の場では引受の備後教区講長代表 最勝講一條康洋講長の弾き語りや、最勝講講員の方々の余興で会場は和やかな雰囲気になりました。

二日目は、本願寺内局の中尾史峰執行より講社の歴史と「講」の現状について提起があり、改めて「講」の営みについて考える研修会となった。



▲講社講員研修会より

ハンセン病現地学習会

同朋社会部

3月23日、ハンセン病の歴史を学ぶため、国立療養所長島愛生園にて現地学習会を開催し9名の参加があった。現地では、午前中に真宗同朋会の鈴木幹雄さんより、ハンセン病に対する誤った認識が回復者の方々・家族関係者を長く苦しめ続けている状況があると病気を取り巻く歴史・状況についてお話いただいた。

また、午後より長島の島内にある歴史資料館を始めとする諸施設を巡り、ハンセン病についての実情を学ぶ一日となった。

お寺の子どものつどい

寺婦

寺族婦人会連盟(那須玲子委員長)は「お寺の子どものつどい」を開催し、子ども17人の参加があった。役員の発案により松永手品サークル「レインボー」による手品ショーと手品体験を行い、初めて目の前で見る手品に参加者一



▲法話を聞く子ども達(お寺の子どものつどい)

修会(庄原) 14日	
16日	定期教区会
17日	仏壮理事会
20日	教堂責役総代会
23日	ハンセン病現地学習会(長島愛生園)
25日	お寺の子どもの集い
27日	得度習礼講習会(28日)
30日	教区実践運動総会
31日	同朋三者懇話会

同盛り上がりを見せた。手品の後は藤間幹夫少年連盟副委員長(深津組光明寺住職)によるご法話を聴聞し、最後に茶話会を行い、つどいを終えた。

このつどいは、平成26年度より寺婦連盟(那須玲子委員長)が担当して今回が4年目となった。役員をはじめ会員の呼びかけにより、毎回多くのお寺の子どもたちが集るようになった。子ども同士のふれあいだけでなく保護者の親睦にも大きく貢献しており、今後にも期待が膨らむ。



▲お寺の子どもをつどい

教化資料BOX

備後教区子ども・

若者ご縁づくり推進委員会では、「こ

どもほうわ」リーフレット最新号を作成した。このリーフレットは、子どもに読み聞かせながら、おとも一一緒に仏さまの願いを知るきっかけになれるようにと企画された。

よみかかせの内容は、「阿弥陀仏になった法蔵菩薩」と題して阿弥陀さまの願いがあらわされています。

ご縁づくりにご活用いただきますようお願いします。ご希望の方は教務所までご連絡下さい。



教務所にあります教材をご利用ください。

備後教区教務所貸出教材紹介

◆貸出DVD◆

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

第二十六(三十五)回

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

中国ブロック記念式典記録映像

鹿児島教区記録映像

第十四回世界仏教婦人会大会

第二十回全国仏教壮年会大会

全国門徒総代会お持ち受け大会

法要に向けて【中央法要事務所作成】

第二十五代専如門主法統継承のあゆみ

御影堂平成大修復

東日本大震災 宮城沿岸部の記録

親鸞聖人物語

浄土法事讃作法・無量寿経作法

しんらん音頭 振付つき

念仏物語 親鸞さま

マリンパーク多古島海辺の集い

インタビュー「世界の念仏者たち」

朗読劇いのちのいろえんぴつ

◆貸出本◆

阿闍世はなぜ父を殺したのか

く郷音 心にコトバ

「今生ただ今」のところを

棚上げにしておいて

死んだ先のことをたずねても

解決できるものではありません

信楽峻磨

人間にとって

一番不幸なことは

自分が生涯をかけて

本当に求めねばならないものが

何であるかを知らないことだ

梯 實圓



今後の予定

4月		24日	保育連盟総会全体協議会 布教団副団長会議
3日	第4連区少年連盟連絡協議会(四州) ～4日迄	25日	おつとめ教室・勤式練習会
4日	仏婦新旧合同役員会	27日	寺婦若婦人研修会 (芦田組 明浄寺)
8日	仏壮総会・研修会	5月	
9日	第4連区仏婦連盟連絡協議会(四州) ～10日迄	8日	布教団役員会
11日	教堂常例法座	9日	ビハーラ役員会
12日	仏婦総連盟総会・恵信尼公法要参 拝(本願寺)～13日迄	11日	教堂常例法座
17日	実践運動総会・全体会 重点プロジェクト推進のための学習会	11日	中・四国ブロック保育連盟連絡 協議会(山陰)～12日迄
19日	仏婦総会・研修会	22日	おつとめ教室・勤式練習会
20日	門推役員会	24日	中・四国寺族青年野球大会(山 口)～25日迄
23日	少年連盟役員会 子ども・若者ご縁づくり推進委員会	31日	寺婦新旧合同役員会

Information

第19回 真宗講座 9月5日(水) 「往還分齊」
 第20回 真宗講座 10月7日(火) 「准知隠顕」
 第21回 真宗講座 3月7日(木) 「一心五念」

講師 安方哲爾 先生
 会場 本願寺備後教堂

各法人からの県庁への書類提出期限は
 7月31日です。

広島県の寺院 (電話 082-228-2111)
 〒730-0011 広島市中区基町 10-52
 広島県庁内 環境県民局 学事課

岡山県の寺院 (電話 086-224-2111)
 〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6
 岡山県庁内 総務部 総務学事課

未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が発生します。お忘れなきようご留意下さい。

教師授与

おめでとうございます
「敬称略」

敬 弔

お悔やみ申し
上げます
「敬称略」

沼隈西組 光讃寺

賞雅典明(釋典明)

(平成29年11月10日付)

三次組 光西寺

長田晃声(釋晃聲)

(平成29年11月10日付)

奥組 永寶寺

前田徳昭

比婆組 西明寺

黒岩晃誠

沼隈西組 東蔵坊

俵 深海

三次組 西光寺

長田賢勝

沼隈西組 浄泉坊

佐々木澄江

住職

(1月5日寂)

衆徒

(2月4日寂)

住職

(2月14日寂)

前住職

(3月22日寂)

前坊守

(3月28日寂)



本願寺備後教堂 (毎月11日)

常例法座案内

出講者 (敬称略)

4月 沼隈南組 西光寺

箱田 義信

「阿弥陀如来のすくい」

5月 鴨川北組 照専寺

佐々木 至成

「真実信心つる人は… (大経讃)」

6月 奥組 浄福寺

山下 瑞円

「凜として浄土真宗」

メールアドレス

h2012@bingo.gr.jp

ホームページアドレス

http://bingo.gr.jp/



自坊で、月1回開いているカ
フェスタイルの「はじめての『歎
異抄』講座」が終了した。当初は、
2年余りで終えるつもりが、足掛
け5年半に及んだ。それ以前は、
『正信念仏偈』…こちらも4年程
だったので、合わせると10年近く
になる。特に『歎異抄』は、師事
する藤田徹文先生の講義を受け
て、さらに掘り下げたいと思った
のだが、直ぐに「これは大変なこ

お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz **Radio BINGO**

とを始めてしまった。」と、後悔
した▲それでも、それがきっかけ
で、お亡くなりになる直前、梯実
円先生の講義をお聴聞させて頂く
為、京都佛光寺まで出掛けて行っ
た。長年、阿弥陀さまに背を向け
て生きて来た自分にとっては、思
いも寄らぬことであつた。10年近
く経つと、流石にカフェの顔触れ
も変わり、人数も少なくなつたよ
うだ。それは、途中挫折されたと
いうよりは、ご病気になられた方
中にはお亡くなりになられた方が
いらつしやるのが実際である。今
でもお宅にお参りに伺うと、カ
フェの事を懐かしんでくださる▲
自身の学びも兼ねてと思い、始め
た試みだったが、一番得ることが
出来たのは、共に教えを頂き飲
合う仲間だったのかも知れない。

(K・M)

『教区報』の編集にあたり、皆様
のご意見やご感想、情報の提供を
お待ちしております。教区報専門
委員会まで、ご一報ください。

TEL (084) 924-5759
FAX (084) 931-9323

仏教婦人会 ほほえみ講座

f 特集 feature articles

オリジナルの線香を作る

3月4日(日)、若婦人専門委員会の主催する「ほほえみ講座」が開催され、31名が参加し研修を受講した。今回は原則50歳までの若婦人を募集し、子どもの託児コーナーを設けて子育て中の方にも参加を促した。午前中は田井智彦布教団員(備中里組蓮乗寺住職)にご法話をいただき、午後からは線香作り体験を行った。線香作りでは子どもと一緒に作業を行い、和気藹々とした雰囲気の中、それぞれがお彼岸にお供えするオリジナルの線香を手作した。仏教婦人会行事に初めて参加した方からは「法話で聞いたことを日常に

生かしたい」や「楽しかった。また参加したい」(アンケート結果)との声もあり、有意義な研修となった。委員会では、今後も気軽に参加のできる研修を企画し、若い世代の方々へご縁をひろげていく。

